



昔も、今も、 これからも。 『ブームスポーツ』 で伝える関大愛。

神戸新聞社 デイリースポーツ記者『よろず〜ニュース』担当
関大生と関大前の情報誌『ブームスポーツ』創設者

杉田 康人さん

社会学部 社会学科 1997年卒
『よろず〜ニュース』<https://yorofoonews.jp/>
『ブームスポーツ』<http://kanmae.com/>

関大と関大前の専門紙『ブームスポーツ』を創刊

現在はデイリースポーツの東京報道部で『よろず〜ニュース』というWebサイトを担当しています。サブカルに特化したコンテンツの配信がメインであり、先日は芸人の間寛平さんを取材しました。

デイリースポーツで記者として働く一方で、関大と関大前の専門メディアである『ブームスポーツ』の運営にも携わっています。大学オフィシャルのメディアではありませんが、関大生や関大のOBやOGの多くが見てくれているメディアです。関大生協で販売される100円朝食や、関大前通りにある飲食店の紹介などの情報を掲載しています。

プロレス研究会の強引な勧誘が人生を変えた!?

関大に入学する前から新聞は好きでしたが、実はKBCという放送研究会に入りたかったんです。新入生歓迎の時期に、放送研究会のボックスへ向かっていると、経商学会の前でKWAというプロレス研究会のイベントが開かれていました。そこで半ば強引に勧誘されて、そのまま入門することに。

このKWAへの入門が意外なことに『ブームスポーツ』へと繋がっていきます。自分でスポーツ新聞を作っている人がたまたまKWAの先輩にいて、僕も作ってみたいと思い『ブームスポーツ』を始めまし

『ブームスポーツ』は1994年10月に当時2回生だった私が創刊しました。創刊当時はインターネットも無い時代だったので、紙で発行していました。ここでは言えない内容ばかりで、学生課の職員にはしょっちゅう怒られましたね。(笑)

今の『ブームスポーツ』は関大生が編集長を務めています。関大生自らが取材をして記事を書いているので、関大と関大前のリアルでディープな情報が満載です。私は『ブームスポーツ』の運営についてアドバイスをして、編集長と記者のサポートをしています。

た。学園祭やイベントで学内でプロレスをしながら、『ブームスポーツ』でプロレスのネタを交えて大学ネタを伝えるという活動をしていましたね。

KBCに入っていたら、もしかすると『ブームスポーツ』は生まれなかったかもしれません。KWAでの縁があったからこそ、今の私があると思いますね。不思議なことにKWAの同期6人のうち、私も含めて4人が新聞社で働いています。

大学の就職課と先輩からの情報で就活を制す

関大を卒業して神戸新聞社へ入社しましたが、元々は短波放送のラジオ局が第一志望でした。実は中学生の頃から、短波ラジオ局のアナウンサーになりたいと思っており、関大に入学したのも、憧れのアナウンサーが関大出身だったからなんです。

大学3回生からは短波放送のラジオ局で開催されるアナウンス講座にも参加。放送研究会に入らなかったものの、アナウンサーの夢を追いかけていました。

大学4回生になり就職活動を開始。当時はインターネットが全く普及していない時代だったので、就職に関する情報を関大の就職課に見に行っていました。ある日、留年しているKWAの先輩と偶然会った時に「明日デイリースポーツの就職セミナーがあるけど、お前受ける?」と誘われて、何となく申し込みをして、セミナーに参加。その後とんとん拍子に選考を通過して、デイリースポーツの母体である神戸新聞社から内定を頂きました。

しかし、当時の私の夢はあくまでラジオ局のアナウンサー。神戸新聞社の内定を辞退して、ラジオ局を受験しようと考えていました。アナウンス講座でお世話になっていたアナウンサーの方に相談したところ、思いがけない言葉が返ってきたんです。「君は才能がないから、受験しないで神戸新聞社に行った方がよい」と。この言葉でアナウン

サーの夢を諦めて、神戸新聞社へ入社することに決めました。

関大の就職課でKWAの先輩と会わなかったら、さらにアナウンサーの方に逆にラジオ局の受験を勧められていたら、神戸新聞社に入社することはなかったかもしれません。KWAと当時私にアドバイスをしてくださったアナウンサーの方に感謝ですね。

5年の休載を経て、学生との共創で『ブームスポ』を再開

1997年に神戸新聞社へ入社後は、東京の部署に配属されて、プロレスの担当記者になりました。プロレス団体の巡業に合わせて全国を回りながら、記事を書く仕事です。休みも少なくハードでしたが、プロレスが盛り上がっていた時代だったので、とても楽しかったですね。

2002年に新聞の見出しを付けたり、レイアウトを組んだりする整理部に異動します。このタイミングで東京から関西に戻ることになったんです。関大生時代に作っていた『ブームスポーツ』は見よう見まねで作った新聞で、当時は新聞を組む技術は分かっていませんでした。しかし、整理部でその技術を習得できたこともあり、1997年から2002年まで休刊していた『ブームスポーツ』を復活させることに…。当時はKWAの後輩に取材をお願いしたり、記事を配ってもらったり、なにかと手伝ってもらいました。ブログやTwitterも始めて、現在のWebサイトの原型が出来上がっていきます。

再開した『ブームスポーツ』は関大生と関大前の情報を伝える媒体を目指しました。関大にもオフィシャルの媒体はありますが、学生の間で起こっていることや関大前で起きたニュースをそのまま報じることは公式には難しいと思っています。関大前に新しいお店ができたとか、何十年も営業してきた定食屋が閉店するというニュースは、関大生やOBにとっては大事件ですね。それを伝えるメディアを作りたいと思ったんです。

関大が公式に発表している情報でも、それを必要としている関大生に届いていない場合があるんじゃないかと思うんです。例えば、学生にとって有益な奨学金や講座の情報などですね。凜風館や東体育館の近くにある掲示板などに貼られていたりするんですが、果たして彼らの目に留まっているのか、と。『ブームスポーツ』を通じて拡散して、情報を必要とする人にしっかり届けていきたいですね。

関大から受けた恩を返したい。その思いで発信し続ける

大学2年生だった1995年に阪神淡路大震災が発生します。当時住んでいた家が全壊したことで、父親の勤務先が経営不振になったことも重なり、関大を退学することを考えた時期がありました。しかし、震災の特例により翌年の学費が無料になりました。当時80万円くらいだったかと思いますが、もし無料にしていなければ、退学せざるを得なかったかもしれません。

就職に大卒が条件になる企業も多いですし、今の私があるのは関大のおかげです。今もこうして「ブームスポーツ」を続けているのは、このご恩を何かで返したいという思いが根底にあるように思います。

東京や地方にいると、関大の情報はなかなか入ってこないですね。『ブームスポーツ』を通じて、東京や地方にいる関大を目指す人や、関大出身のOBやOGに情報を発信していきたいと思っています。

いま関大生である皆さんには、何の役にも立たないと思うことを目いっぱいしてほしいですね。ご飯を食べることも忘れて、熱中して勉強や行動できるのは、学生時代しかありません。学んだことを理解できるのは、年を重ねてからだと思うので、学生時代はとにかくたくさん知識を詰め込んでください。



あなたにとって関西大学とは？

一言で表すと、同じ想いを持っている「同志」だと思います。家族と言っても良いかもしれません。関大生と聞くと、それだけで嬉しくなるし、すぐに仲良くなれると思います。普通は大学時代の学籍番号を覚えている人は少ないですね。関大生は意外と覚えているんですよ。私は社93の600番でした。(笑)

関西大学を盛り上げていきたい、今の関大生に有益な情報を届けたい。そう思うのはやはり「同志」だから。『ブームスポーツ』を通じて、これからも関大と関大前を応援していきたいと思っています！



関西大学東京センター

100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー9階
TEL: (03) 3211-1670 (代) FAX: (03) 3211-1671
<https://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/>



公式 website



公式 Facebook



公式 Twitter



LINEスタンプ



LINEスタンプ
(関大ライフ編)